

氏名	山本 純子
学位の種類	博士（応用情報科学）
学位記番号	博情第 72 号
学位授与年月日	令和 5 年 9 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当（課程博士）
論文題目	新人看護師の職業継続に向けた ICT を活用した支援の検討
論文審査委員	（主査）教授 石垣恭子 （副査）教授 水野由子 （副査）准教授 高見美樹

## 学位論文の要旨

新人看護師の離職要因には、「リアリティ・ショック」と「職場内の人間関係」があるといわれており、臨床医療機関では、看護基礎教育を卒業した新人看護師が新たな環境へと適応し看護師として踏み出せるよう、卒後教育の充実化を図っている。しかしながら、様々な要因から職場に適応することができず、二次的に心身の健康を損ない、早期離職に至るケースも少なくない状況がある。

新人看護師が勤める職場以外では、日本最大の看護職能団体である公益社団法人日本看護協会や 47 都道府県に設置されている看護協会、特定非営利活動法人をはじめとした団体による支援がなされ、相談窓口が設置されている。しかし、これらの支援は対面や電話相談によるものが主流である。ICT の活用は日常生活において急激に普及、浸透しているが、医療職の現場における ICT を活用した支援についてはオンライン研修や教育プログラムが中心で、看護師が個々に抱えている悩みや不安を相談したりするための手段としての活用は少ない。利用者からの反応を明らかにした研究は認められず、取り組みの評価検証には至っていない。支援者に対しては、看護職への理解があることを前提に、新人看護師の体験世界や抱えるであろう問題に精通し、支援を行うにあたっての知見を有している人であるとともに、カウンセラーとしてのスキルも持ち合わせていることが求められる。そのような支援が出来るようなシステムを整えることができるならば、新人看護師は対面や電話による方法に限定されず、職場から離れた中立の立場にある第三者へ自由にアクセスすることが可能となり、幅広く活用できる支援になりえると考えられる。

本論文では、新人看護師の職業継続に向けた ICT を活用した支援を検討するため『新人看護師の職業継続支援に向けた面談ガイド』を作成し、そのガイドを用いて新人看護師へ

Web面談を実施、面談を受けた看護師へのインタビュー調査からWeb面談の評価を行うことを目的として取り組んだ研究について記した。

第1章では、本論文の構成について述べた。

第2章では、わが国の新人看護師の離職の実態と背景、新人看護師の職業継続支援に関する施設内外からの取り組みについて概観し、本研究の背景及び目的について述べた。

第3章では、新人看護師への職業継続支援で必要な支援者の視点を得るため取り組んだ2つの研究について述べた。「早期離職をした新人看護師の経験」と「新人看護師の看護労働環境」の側面から、新人看護師が臨床1年目に陥りやすい問題や離職の方向へ変化しやすい経験、感情の変化に係わる労働環境との関連を捉えることができ、職業継続に向けた支援の視点を検討した。そして次に、これらの研究成果をもとに、新人看護師へ職業継続支援のために必要な支援者の視点として『面談ガイド』を作成した。その作成の過程、ガイドの内容および意図について述べた。

第4章では、作成したガイドを利用し、ICTを活用してWeb面談に取り組んだ実際を取り上げ、どのような方法で実施したのか、対象者とどのように調整を図ったのかなどを述べた。そして、Web面談が終了後、面談の方法として使用した端末や機材、場所、準備状況など、メリットとして良かったところ、やり易かったところなど、デメリットとして悪かったところ、やりづらかったところなど、面談を受けての感想などを、自由に語ってもらうインタビュー調査を行い、面談を受けた新人看護師の視座から新たな試みについて検証した。

第5章では、総合考察として本研究のまとめと、今後に向けて、実用性のある活動となるための課題について述べた。

## 論文審査の結果の要旨

新人看護師の離職要因には、「リアリティ・ショック」と「職場内の人間関係」があるといわれており、臨床医療機関では、看護基礎教育を卒業した新人看護師が新たな環境へと適応し看護師として踏み出せるよう、卒後教育の充実化を図っている。しかしながら、様々な要因から職場に適応することができず、二次的に心身の健康を損ない、早期離職に至るケースも少なくない状況がある。

ICTの活用は日常生活において急激に普及、浸透しているが、離職に関する支援は対面や電話相談によるものが主流である。医療職の現場におけるICTを活用した支援については、オンライン研修や教育プログラムが中心で、看護師が個々に抱えている悩みや不安を相談したりするための手段としてのICTの活用は少ない。

本研究は、新人看護師の職業継続に向けたICTを活用した支援を検討するため『新人看護師の職業継続支援に向けた面談ガイド』を作成し、そのガイドを用いて新人看護師へ

Web面談を実施、面談を受けた看護師へのインタビュー調査からWeb面談の評価を行うことを目的として取り組んだ。

まず、「早期離職をした新人看護師の経験」の側面から、新人看護師が臨床1年目に陥りやすい問題や離職の方向へ変化しやすい経験、感情の変化に係わる労働環境との関連を捉え、職業継続に向けた支援の視点についてTEA分析手法を用いて検討した。

次に、「新人看護師の看護労働環境」の側面から、新人看護師の感情の変化をライフ・ライン・メソッドを用いて表現させ、分析した。この二つの側面からの分析を基に、新人看護師へ職業継続支援のために必要な支援者の視点として『面談ガイド』を作成した。

さらに、作成したガイドを利用し、ICTを活用してWeb面談に取り組んだ。Web面談の終了後、面談方法として使用した端末や機材、場所、準備状況など、良かったところ、やり易かったところ、やりづらかったところなど、面談を受けての感想を、自由に語ってもらうインタビュー調査を行い、面談を受けた新人看護師の視座から新たな試みについて検証した。この結果から、新たに開発した職業継続支援のための面談ガイドを用いたオンライン面談は、コンサルテーションを受けるための移動や費用負担が軽く、所属病院以外のコンサルタントに話を聞いてもらえる為、緊張することなく自分を振り返り、自分の成長や仕事への姿勢に気づく効果があることが示唆された。

これらのことから、本研究では、新人看護師の早期離職を予防するための手段として、新規に作成した面談ガイドを使用し、Web面談を行うというICTの利活用の具体的方略が示された。

以上を総合した結果、本審査委員会では、本論文が「博士(応用情報科学)」の学位授与に値する論文であると全員一致で判定した。